

2020年4月27日(日)礼拝メッセージ

聖書箇所：ヨハネ 14 章 12～17 節 (P214)

タイトル：「イエスを信じる者に与えられる約束」

前回に続き、ヨハネの福音書 14 章からお話しします。きょうは、12 節から 17 節までの箇所からイエスを信じる者に与えられる約束について学びたいと思います。

## 1. イエスが行うわざを行う(12)

まず、12 節をご覧ください。

「まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしを信じる者は、わたしが行うわざを行い、さらに大きなわざを行います。わたしが父のもとに行くからです。」

十字架につけられる前夜、弟子たちと最後の晩餐の時を持たれたイエスは、もうすぐ彼らのもとを去って行くことと伝えました。しかも、自分が行くところには、彼らは来ることができません。後で来ることができそうですが、今はついて来ることができなません。そう言われると、弟子たちは不安になりました。そんな彼らにイエスは、「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」(1)と言われました。なぜこのように言われたのでしょうか。なぜなら、神を信じるなら、そして、イエスを信じるなら、すべての恐れや不安は消え去るからです。問題は神に信頼していないことです。神に信頼するならばすべての問題は解決します。なぜなら、神は天の御国を与えてくださるからです。この世の視点で物事を見たら、心配やイライラは絶えないでしょう。しかし、この世を越えた神の国、天の御国の視点で見ると、そこに新しい思いが生まれ、平安が与えられるのです。それはこの世の平安ではありません。イエス・キリストによって与えてくださる神の平安です。主イエスは、その場所を用意するために父のもとへ行かれるのです。そして、彼らのために場所を用意したら、また来て、彼らを迎えてくださいます。主がおられるところに、彼らもいるようにするためです。

何とすばらしい約束でしょうか。主イエスに信頼する者に、主はこのような約束を与えてくださいました。それは、今を生きる私たちにとってどれほど大きな慰めと励まし、助けでしょうか。このような主イエスの約束に信頼して歩めることは、ほんとうに感謝なことです。

そして、ここには主イエスを信じる者に対する、もう一つの約束が記されています。それは、「わたしを信じる者は、わたしのわざを行い、さらに大きなわざを行います。」ということです。どういうことでしょうか。

まず、ここには「まことに、まことに」とあります。これは何回もお話ししてきたように、主イエスが大切なことを語られる時に使われた言葉です。何が大切なのかというと、イエスを信じる者は、イエスのわざを行うということです。イエスのわざとは何でしょうか。それは、イエスが成された奇跡の御業のことです。ここで奇跡と言っているのは、病気が癒されたり、悪霊が追い出されたり、死人が生き返ったりといったことだけでなく、神に背を向けていた人たちが、神を信じるようになったことも含みます。

使徒の働き 3 章には、ペテロとヨハネが生まれつき足の不自由な人を癒したことが記されています。午後 3 時の祈りの時間に、彼らが宮に上って行くと、そこに生まれつき足の不自由な人が運ばれて来ました。この人は、宮に入ると、人々から施しを求めするために、毎日「美しの門」と呼ばれる門に置いてもらっていましたが、そこにペテロとヨハネが通りかかったのです。彼は何かもらえるのではないかと思い、施しを求めました。すると、ペテロは彼を見てこう言いました。「**金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。**」(使徒 3:6)

すると、彼の足とくるぶしがたちまち強くなり、躍り上がって立ち上がり、歩き出したのです。いったいなぜペテロはこのようなことができたのでしょうか。ここに、「**わたしを信じる者は、わたしが行うわざを行い、**」とある通りです。彼は自分の力とか、敬虔さとかによって歩けるようにしたのではありませんでした。彼は、十字架で死なれ、三日目によみがえられたイエス・キリストの御名が、その名を信じる信仰のゆえに、この人を強くし、立ち上がらせてくださったと証しました(使徒 3:12~16)。主イエスを信じる者は、主イエスが行われたわざを行うようになるのです。

しかし、ここにはそればかりではなく、さらに大きなわざを行うともあります。どういうことでしょうか。主イエスを信じる者は、主イエスよりもさらに大きなわざを行うようになります。この「さらに大きなわざ」とは、字義的には「さらに大きなこと」です。すなわち、それは質的なことではなく、その影響力の及ぶ範囲の大きさを示しています。それは主イエスの復活後の弟子たちの働きが、地上でイエスがなされた働きよりも広範囲に及ぶことを意味しています。なぜなら、主イエスの地上生涯の活動範囲はパレスチナの地に限られていましたが、また、宣教の対象もユダヤ人たちに限られていました(マタイ 15:24)が、イエスを信じる者はその救いの福音を異邦人世界にまでもたらし、イエスを知らなかった多くの人々にまで宣べ伝えていくようになるからです。今日世界中に福音が宣べ伝えられ、多くの人々が主イエスを信じるようになったのも、また、こうして私たちも主イエスを信じるように導かれたのも、この主の約束の成就にほかなりません。

いったいどうしてこのようなことになるのでしょうか。主はその理由を、その後のところでこのように言っておられます。「**わたしが父のもとに行くからです。**」どういうことですか。

イエスが父のもとに行くとなぜこのようなことが起こるのでしょうか。それは聖霊が降られるからです。聖霊が降って、彼らにそれをする力を与えてくださるからです。使徒 1:8 をご覧ください。使徒 1:8 をご覧ください。ここには、「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」とあります。

主イエスは苦しみを受けた後、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを 40 日間使徒たちに示されると、彼らが見ている間に天に昇って行かれました。その直前に語られたのがこのことばです。それは、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けるといこと、そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、及び地の果てまで、わたしの証人となるということでした。

それから 10 日日、すなわち、過越の祭りから 50 日目に、このことばの通り聖霊が降りました。それはユダヤ教の五旬節の日、ギリシャ語ではペンテコステと言いますが、その日に起こりました。彼らが同じ場所に集まっていたとき、天から突然、激しい風が吹いて来たかのような響きが起こると、彼らが座っていた家全体に響き渡りました。また、炎のような分かれた舌が現れ、一人ひとりの上にとどまると、皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のことばで話し始めたのです。いったい何が起こったのかとそこにいた人たちが驚いていると、ペテロが立ち上がって説教しました。すると、何と 3000 人が救われたのです。3000 人ですよ。たった 1 回の説教で 3000 人が救われました。彼はシンプルに福音を語っただけでしたが、3000 人ものが救われたのです。

さらに、先ほど紹介した生まれつき歩くことができなかつた人がペテロによって癒されたのを見た人たちが、ペテロの言葉を聞くと多くの人々がイエスを信じました。その数、男だけで 5000 人です。すると、徐々にエルサレムの教会に対する締め付けが厳しくなってきました。そして、激しい迫害が起こり、使徒たち以外の者はみなユダヤとサマリアの諸地方に散らされて行きました。しかし、弟子たちはそこでも福音を宣べ伝えたので、福音はさらに広がって行きました。そして、使徒パウロが救われると、彼の手によって福音はマケドニア、ギリシャ、ローマへ、すなわち、ヨーロッパへと拡がって行きました。そして、やがて地の果てにまで拡がって行ったのです。

いったいどうしてこのようなことが起こったのでしょうか。聖霊が降ったからです。聖霊が降り、弟子たちの上に臨んだので彼らは力を受けました。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、及び地の果てまで、キリストの証人となったのです。聖霊によって、この約束が実現しました。その聖霊はどのようにして降ったのですか。イエスが父のもとに行くことによってです。イエスが父のもとに行ったので、父は約束の聖霊を遣わしてくださったのです。全部イエス様が言われたわれたとおりでした。

弟子たちはイエスが去って行くということで不安になっていました。今までイエス様に頼ってきたのに、そのイエスがいなくなってしまうのです。いったい自分たちはどうになってしまうのか。漁師をやめてもう3年半にもなります。もう戻るなどできません。殺されるかもしれない。いったいどうしたら良いのか。しかし、イエスが去って行くことは、彼らにとって良いことでした。なぜなら、イエスが父のもとに行くことによって彼らのために場所を用意してくださるからです。その場所が出来たらまた来て、彼らを迎えてくださいます。イエスがいるところに、彼らもいるようにするためです。そればかりではありません。イエスが父のもとに行くことで彼らの働きがストップしてしまうどころか、ますます大きくなって行きます。なぜなら、それによって約束の聖霊が遣わされるからです。この方は16節に「もう一人の助け主」と言われていますが、この方の力によって爆発的な働きをするようになるのです。

ですから、私たちは心を騒がせてはなりません。私たちがすべきことは、神を信じ、またイエスを信じることです。信じるとは、信頼することです。それは、単に頭で受け入れるということ以上のことです。それは、人格的に、個人的に主イエスに信頼を寄せることです。主イエスは「神を信じ、またわたしを信じなさい」と言われました。このことばに信頼しなければなりません。ローマ8:28には、「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」とあります。すべてのことがともに働いて益となるのです。すべてのことです。今起こっているコロナウイルスの問題も、今あなたの生活に起こっている問題もすべてです。それは決して悲しいことではなく、そのこともまた主が支配しておられ、あなたのために働いて益となるということ信じなければならなりません。イエスを信じる者は、イエスが行うわざを行い、さらに大きなわざを行うのです。

## II. イエスは祈りに応えてくださる (13-14)

第二のことは、イエスは祈りに応えてくださるということです。13節と14節をご覧ください。「またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは、何でもそれをしてあげます。父が子によって栄光をお受けになるためです。14 あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしがそれをしてあげます。」

イエスはここで、「わたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは、何でもそれをしてあげます」と言われました。どういうことでしょうか。イエスが私たちの祈りに応えてくださるということです。しかも「何でも」です。すごいですね。何でもですよ。ただ一つだけ条件があります。それは、「わたしの名によって求めるなら」(13)ということです。

このことは、14 節にも繰り返して語られています。あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしがそれをしてあげます。

では、「イエスの名によって求める」とはどういうことでしょうか。ある人は、私たちは、父なる神に対して信用のない罪人なので神はその祈りを聞いてくださらないが、主イエスは神の子であり全く罪がない方であり、父なる神に対して完全な信用があるので、この方の名前で祈るなら聞き入れていただけると考えていますが、そういうことではありません。イエスの名によって求めるとは、イエスのみこころに従って求めるということです。「名は体を表す」ということわざがありますが、名はその人の性格とか人格、その人自身を表す言葉だからです。すなわち、私たちの願いが、イエス・キリストにふさわしい願いなのかどうか、イエス・キリストが望んでおられること、神が望んでおられることと一致しているのかどうかということです。もしそれが一致しているなら、どんなことでも聞いてくださるのです。

Ⅰヨハネ 5:14 には、「何事でも神のみこころにしたがって願うなら、神は聞いてくださるということ、これこそ神に対して私たちが抱いている確信です。」とあります。神に対する私たちの確信とは何でしょうか。それは、何事でも神のみこころにしたがって祈るなら、神は聞いてくださるということです。叶えてくださるということです。それこそ、神に対して私たちが抱いている確信です。

イスラエルの歴史において栄華を極めたのはソロモンという王でした。ソロモンはダビデの子です。イスラエルは、ダビデ王の時代に統一王国となりました。そして、その子ソロモンの時代に繁栄を迎えたのです。

そのソロモンが王になったとき、神は彼に、「あなたに何を与えようか。願え。」(Ⅰ列王記 3:5)と仰せになりました。このように言われたらあなたなら何と答えるでしょうか。ソロモンは善悪を判断し、聞き分ける心を求めました。それは、神のみこころにかなう願いだったので、神はその願いを聞いてくださったばかりか、彼が願わなかったことまで、すなわち、富とか誉も与えてくださいました。彼は自分のために長寿を願わず、自分のために富を願わず、敵のいのちさえも願わず、むしろ自分のために正しい訴えを聞き分ける判断力を求めたので、神は彼に知恵と判断力とともに、すべてのものを与えてくださったのです。それで彼は主の宮を建て、王宮を建て、さらにたくさんの事業を成功させることができました。

そんなソロモンのうわさを聞いて、諸国の王たちが謁見を求めましたが、シェバの女王もその一人で、彼女はソロモンの名声を聞いて、難問をもって彼を試そうとしました。するとソロモンは、彼女のすべての問いに答えることができました。それで彼女はびっくりして、また、彼が建てた宮殿と、そこで仕えていた家来たち、給仕していた者たちの態度や服装を見て驚き、ソロモンが求めたものは何でもその望むままに与えました。ソロモンの願いは神

のみこころにかなったものだったので、神は彼の祈りに応えてくださったのです。私たちの願いが聞かれるのは、それが神のみこころにかなった願いである時です。それが「わたしの名によって求める」ということです。私たちがキリストの名によって求めるなら、キリストは何でもかなえてくださるのです。

どうして私たちがみこころにかなった願いをするなら、主は何でも聞いてくださるのでしょうか。13節後半にその理由が述べられています。それは、「父が子によって栄光をお受けになるためです」。神はすべての必要を満たすことができる方です。ですから、その祈りを御子が聞いてくださるとしたら、父がどれほど栄光に富んでおられる方であるかがわかります。そのことによって父は栄光をお受けになるのです。

ですから、私たちもキリストの名によって求めましょう。それがかなえられることで、父なる神が栄光をお受けになられるからです。あなたの願いは何ですか。それは神のみこころにかなった願いでしょうか。それは神の栄光を求めたものでしょうか。人々の益になることでしょうか。もしあなたが、神のみこころにかなった願いをするなら、神はどんなことでも聞いてくださいます。

小さな女の子が、新型コロナウイルスのためにこのように祈りました。

愛するパパ神様　ここにいますよね？「聞いている」ってママが言ったもの　あたしまだ小さいけど　今日はすみません　愛やオモチャのおねだりより　もっと大事な願いをします。今日は新型コロナウイルスの犠牲者のために祈ります。亡くなった人たちと残された人たちです。どうぞパパ神様　見守ってください。親を亡くした子供たちや、子どもを亡くしたお年寄りや　家族1人2人亡くしたすべての人たちを　どうぞみんなを抱きしめて　しっかり守ってください　世界中の苦しんでいる人たちのために祈ります　みんなひとりぼっちで怖いのです　パパ神様、みんなを治してください　全てはじきによくなるって教えてあげてください　みんな家で待ってる愛する人のもとに帰って　ハグをして　もう泣かないで済むように　おうちのいない人や　家族を養うお金のない人のために祈ります　どうぞ希望をなくさないよう　祝福してあげてください　命を救うために　毎日できる全てをやって　命の危険を冒しているお医者さんたちや　患者がよくなるのを助けるために　休まずに働く看護師さんたちや　介助に全力を尽くす医療スタッフのために祈ります。パパ神様　皆さん　食べて休息をとるように促してください　また私たちが家の中にいて安全なように　日夜働いているお巡りさんのために祈ります　家にいる私たちのために外で働くので力をあげてください　この闘いで皆さんはスーパーヒーローです　皆さんを祝福してください　ヒーローになるのは大変なんです　神様　この悪夢を止めるために　一つになり互いに助け合うように導いてください　そうすれば皆　普通の生活に戻れます　そうすれば遠くにいた人も　やっと家に帰り　家族と一緒になれます　パパ神様　どうぞ世界を癒し

て 世界を救うために闘うすべての人を守ってください 希望は捨てません あなたの  
名ですべてが良くなると信じていますから アーメン

この子はアラスカの5歳の女の子です。まだ小さな子ですが、神をパパ神様と呼んで、愛  
にあふれた思いやりのあるお祈りをしました。どうしてこんな祈りができるのでしょうか。  
それは、日々の生活の中でパパ神様からの愛を一杯感じながら、神様は自分の祈りを聞いて  
くださると純粋に信じているからだと思います。イエス様が、子どものようにになりなさいと  
言われた意味が、分かるような気がします。

主イエスは、私たちに約束してくださいました。「あなたがたが、わたしの名によって何  
かをわたしに求めるなら、わたしがそれをしてあげます。」私たちは、この約束を握りしめ  
て、キリストの名によって祈り求めようではありませんか。

### Ⅲ. もう一人の助け主を与えてくださる (15-17)

第三のことは、もう一人の助け主を与えてくださるということです。15節から17節まで  
をご覧ください。「15 もしわたしを愛しているなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはず  
です。16 そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、そ  
の助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。17 この方は真  
理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。  
あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなた  
がたのうちにおられるようになるのです。」

私たちが主イエスの名によって求めるなら、主は何でもかなえてくださいます。ただし、  
そのために私たちに求められていることがあります。それは、主イエスに対する愛です。こ  
こには「もしわたしを愛しているなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。」とあ  
ります。それを可能にするのはイエス様に対する愛なのです。そして、イエスを愛する人は、  
イエスのことば、イエスの戒めを守るはずです。イエスを愛していると言いながら、そのこ  
とばを守らないとしたら、その愛とはどのような愛なのか首をかしげたくになります。イエス  
を愛する者は、イエスの戒めを守るはずだからです。そうすれば、自ずと主のみこころにか  
なった祈りができるようになるでしょう。そこには自分の名誉ではなく、ただ主の栄光を求  
める思いがあるからです。

では、どうやって主イエスの戒めを守ることができるのでしょうか。16節にはこうあり  
ます。「そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その  
助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。」ここには、主イ

イエスが父にお願いすると、父はもう一人の助け主を与えてくださるとあります。

「助け主」とは、ギリシャ語で「パラクレートス」といいますが、意味は、助けるためにそばに呼ばれた者とか、慰める者、励ます者、助言してくれる者、弁護者です。Ⅰヨハネ 2:1には、この語がキリストご自身について用いられていますが、そこには「とりなしてくださる方」と訳されています。「私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。しかし、もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の前でとりなしてくださる方、義なるイエス・キリストがおられます。」

新改訳第三版では「弁護してくださる方」と訳されています。イエス様は私たちの弁護士です。その同じ語が、ここで用いられているのです。ですから、ここでは「もう一人の助け主」と言われているのです。「もう一人の」という言葉はギリシャ語で「アッロス」という語ですが、これは「全く同じ性質の」という意味です。別々の存在ですが、主イエスと全く同じ性質を持った方が来て助けてくださるといいます。私たちの人生には「どうしたら良いか」と悩むことがよくありますが、そんな時「これが道だ。これに歩め」と言って導いてくださる方がいたらどれほど大きな助けとなるでしょう。それが「真理の御霊」です。この方は、先ほど説明したように、イエスが父のもとに行くことによって、父なる神によって遣わされる方です。先ほどのところでは、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けますと、力の面が強調されていましたが、ここではそばにいて助けてくださる方、励ましてくださる方、導いてくださる方であることが強調されています。

昔イスラエルの民がエジプトを出て荒野に導かれたとき、どこに向かって進んでいったら良いかわからなかったとき、昼は雲の柱、夜は火の柱となって彼らを導いてくださったのはこの聖霊でした。私たちの人生も荒野です。どこに向かって進んで行ったら良いかわからない時がありますが、この方がいつも私たちとともにいて助けてくださいます。いや、私たちのうちにいて導いてくださるのです。これほど大きな助けはありません。

この時弟子たちは、イエス様が父もとに行かれると聞いて不安になり心を騒がせていましたが、そのことはむしろ彼らにとって良いことでした。なぜなら、イエスが去って行くことで「もう一人の助け主」が遣わされ、その方がいつも彼らとともにおられるだけでなく、彼らのうちに住んでくださるようになるからです。主イエスは、「見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」(マタイ 28:20)と言われましたが、これはこの真理の御霊、神の聖霊によって実現することだったのでした。

私たちの神は「インマヌエル」の神です。いつまでもともにおられる神です。イエスを信じる者の心の内には、いつも、またいつまでも聖霊が住んでくださり、神のみこころに歩めるように助けてくださいます。私たちは本当に弱く、神の戒めを守ることもできないような者ですが、この聖霊が助けてくださり、主イエスを愛することができるように励ましてくださいます。そして、主イエスを愛する者として、この主イエスの名によって大胆に祈ること

ができるのです。

イエス様が弟子たちから離れ去って行くことで、弟子たちは不安になり心を騒がせましたが、たとえ主が去って行っても心配することはありません。主イエスは私たちのために場所を供えに行かれたのですから。そして、主イエスが去って行かれても、神はもうひとりの助け主を送ってくださいます。それは真理の御霊です。この方はいつまでも、私たちとともにいてくださいます。そして主イエスがおられた時のような奇跡の御業を、いや、さらに大きなわざを行うようにしてくださいます。また、主イエスの名によって求めるならば、何でも与えてくださると約束してくださいました。ですから、私たちは何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、私たちの願い事を神に知っていただくことができるのです。そうすれば、私たちのすべての考えにまさる神の平安が、私たちの心と思いをキリスト・イエスにあって守っていただけるのです。私たちに求められているのは、この方に信頼することです。神を信じ、またわたしを信じなさい。そう言われたイエスに信頼することなのです。

あなたはどうか。恐れていることがありますか。それは健康のことですか、家族のことですか、仕事のことですか、人との関係のことですか、それがどんなことであっても、キリスト・イエスにある神の愛からあなたを引き離すものは何もありません。あなたが主イエスの名によって祈るなら、神は何でも聞いてくださいます。私たちの神は死んだ神ではありません。今も生きておられる神です。あなたの祈りに応えてくださいます。この方に信頼して祈りましょう。あなたのうちにはもう一人の助け主、神の聖霊がいていつも助けておられるのです。